

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第10回 定期総会 (通算15回)

議事次第 ・ 資料等

日時 2007年6月3日(日)

午後2時00分から午後4時00分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第10回 定期総会

資料添付リスト

議題

第1号議案 2006年度の活動報告と決算報告 議決事項

活動報告 3ページから5ページ

決算報告 6ページから10ページ

第2号議案 学生会員の新設 定款変更 (出席の3/4以上の議決事項)

11ページ

第3号議案 2007年度の活動方針案と 予算案 議決事項

予算案 13ページ 活動方針案 14ページ

報告事案

1. 介護保険事業「デイサービス赤目の森」の取り組みについて 別紙

2. 第14回全国雑木林会議三重大会in赤目の森 開催について 別紙

2006年度 活動全記録

- 2006年 4月 2日 第14回全国雑木林会議三重大会 実行委員会
3日 2006年冬 国際ワークキャンプ
16日 里山総合講座終了式
5月 1日 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業
13日 週末ワークキャンプ
6月11日 理事会 赤目の里山を育てる会 総会
25日 里山保全整備活動
7月 2日 名張市市民公益活動実践事業「ユニバーサル・ウォーク」実施
6日 赤目小学校 里山散策
16日 名張市市民公益活動実践事業「里山ワイルドライフ」実施
22日 滋賀県社会福祉協議会 講演 理事長
30日 第14回全国雑木林会議三重大会プレ祭典「里山祭」
8月 7日-10日 韓国 小学校教員研修
9日 韓国教員と赤目小学校教員との合同研修会
28日-1日 独) 国際交流基金 市民青少年交流助成事業「文化の源・里山での交流」
9月 2日-22日 2007年 国際ワークキャンプ名張 夏キャンプ
3日 名張市市民公益活動実践事業「ユニバーサルウォーク」実施
14日 第14回全国雑木林会議三重大会 プレエクスカーション
15日-16日 第14回全国雑木林会議三重大会 エクスカーション
17日-18日 第14回全国雑木林会議三重大会 本会議
10月 1日 名張市市民公益活動実践事業「ユニバーサルウォーク」実施
17日 第15回全国雑木林会議島根大会 大田市 視察 理事長
29日-30日 関西大学社会学部 合宿
31日 デイサービス赤目の森 日帰り旅行 桑名市
11月11日-12日 ナショナル・トラスト全国大会鳥取大会 参加 理事長
19日 名張市市民公益活動実践事業「里山ワイルドライフ」実施
22日-23日 市民セクター全国会議 理事長
26日 里山保全整備活動
12月 3日 名張市市民公益活動実践事業「ユニバーサルウォーク」実施
23日 里山所有者 問題解決相談会
2007年 1月21日 名張市市民公益活動実践事業「里山ワイルドライフ」実施
24日 里山保全整備活動
2月 4日 名張市市民公益活動実践事業「ユニバーサルウォーク」実施
25日 味噌づくり
3月 4日 山口県周防大島町 まちづくり講演会 理事長
11日 宮崎県綾町 エコツーリズム研修会 理事長
16日-30日 2007年 国際ワークキャンプ名張 春キャンプ
17日 滋賀県大津市 新しいネットワークづくり 理事長
25日-27日 国土緑化推進機構 助成事業「春休み・青少年里山探検キャンプ」

【議案 1】 2006年度の活動方針に沿っての報告

1. 創立10周年記念事業としての第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森の成功させて、多くの人たちに里山の大切さを普及啓発していく。

2007年9月17日18日の両日行われた第14回全国雑木林会議三重大会in赤目の森には、北は北海道から南は九州まで全国各地から参加者が集まりました。その参加者数延べ350名。半年以上の時間と多くの仲間たちの努力の賜物により、第14回全国雑木林会議は多くの成果を上げて無事に次回の島根大会に引き継ぐことができました。

これは、関係機関、行政、各種団体、地元の企業 団体 三重県内の多くの環境団体の皆様、国際ワークキャンプ「ナイス」のメンバー、赤目の里山を育てる会会員など多くの皆様のご支援ご協力のお陰だと心から感謝したいと思います。

全国雑木林会議の第1回が開催された頃、赤目には、エコリゾート赤目の森というゴルフ場建設に反対して、積極的な地域づくりの核となり、里山保全の中核となるべき施設が完成した時期と重なります。丁度同期の活動を始めることになったこの会議を赤目の里山で開催するのは、とても意義深いものがあります。

赤目の森が始めた事業型里山保全の活動は、この14年間で全国で熟成し理解を得られるようになったということがいえるでしょう。次回以降の全国雑木林会議の発展とその行方を注意深く見守りたいと思います。

開催に当たって様々な活動を行う中で、里山の重要性を広くアピールする事ができました。赤目の森の取り組みを全国に発信することもできました。しかし、会議開催に当たって、実行委員の数が少なく、個人に大きな負担をかけたり、赤目の里山を育てる会が定期的開催して里山総合講座の開講などができませんでした。

また、資金提供も結果的に大きな支出を招くことになり、財政的に大きな負担をかけることになりました。

このような功罪相まっての中で、無事に会議を終了することができました。

小さなNPOが担うのには、少し規模が大きかったかもしれません。しかし、貴重な経験と里山保全の全国的活動の中核を担った歴史的貢献はいつまで記憶の中に留められると思います。

第14回全国雑木林会議三重大会の成果と教訓は、近く出される「報告書」でご確認ください。

2. 赤目の里山の保全管理を着実にいき、景観の保持と利用促進を両立させていく。

赤目の里山の保全 管理の中心は、トムソーヤ広場とそこから伸びる「里道」の確保です。

熊笹に負けていたトムソーヤ広場は、今年度辺りから積極的に導入されるようになった「乗用草刈車」のお陰で、すっかり管理の手の中に入りました。その景観は見事に里山を体現しているといってもいいと思います。

これらの作業の中核となったのは、国際ワークキャンプの春と夏の定期的なキャンプと、週末に行われるキャンプによるものです。単純にその員数を計算しても延べ500人以上の活動量であるということができると思います。もちろん、それ以外にも、第四日曜日の統一活動日の作業や個々の活動も大きな支えになっています。

地元の会員の協力者が減少している最近では、日常的な赤目の里山を育てる会の活動は確実に減少しています。だからこそ、国際ワークキャンプの活動はその意味は大きく重要です。しかし、地元の会員の獲得、協力者の獲得なしに、赤目の里山を育てる会の活動が発展していく可能性は少ないと思います。里山の保全活動を通じて、仲間を増やしていく取り組みを行わなければなりません。

特に「団塊世代」の大量リタイアの社会的な受け皿としても、積極的な展開が望まれると思います。

また、このような赤目の里山で名張市立赤目小学校との協働授業である「里山自然散策授業」は、昨年で9年目が終わり、今年の春からは10年目の授業がスタートしています。小学校の先生方との協力関係で充実した取り組みを無事に取り組んでいきたいと思っています。

3. 10周年の記念トラスト地の確保を目標とする。

今年度は、第14回全国雑木林会議の開催に、赤目の里山を育てる会の全精力を傾け、会議終了後も、その後

処理などに多大な時間を割くことになり、方針で決定した10周年の記念のトラスト地の確保はできなかった。地権者の意識向上を目指した助成事業の中で、土地を売却したい方より連絡はあったものの、目標とする地域ではなかった。

ただ、今年度後半から経済の動向が好転している状況の中で、またぞろ開発の手が動いてくるか予断を許さない状況となっていると考えた方が良いのかもしれませんが。着実な体制と資金を確立して、積極的に対応していきたいと思います。

4. 地域に根付いた取り組みを進めていく。

今年度の行政との協働事業は、名張市市民活動実践事業の二つの事業を取り組む事ができました。「ユニバーサルウォーク」と「里山ワイルドライフ」の二事業です。無事に一年間大きな成果をもたらして成功する事ができました。しかし、地域に根ざした活動と呼べる事業は、今年度も積極的にはできなかったということがいえると思います。

第14回全国雑木林会議の開催のために、「里山自然体験講座」などの一般市民を対象にした企画を取り組むことができなかったということです。また、もっと身近な自然観察会等を定期的に行っていく必要があると感じています。そのような中で、真に赤目の里山を育てる会の会員として協力してもらえようかな方が出てくるのではないかと考えています。

5. 介護事業のさらなる発展を追及し、質・量とも一人前の事業体として研鑽を積む。

開設4年を無事に経過しているデイサービス赤目の森は、介護事業の積極的な実績を蓄えているということがいえます。今年度の介護報酬は過去最高の水準となりました。これは、ひとえに介護職員の日々の献身的な仕事の結果ということがいえると思います。

ただ、この介護事業は、近い将来を予測することが困難な状況であり、好調が続くという事は限りません。実際に、新年度に入り、開設以来利用してもらっていた方たちが、死亡されたり、転施設となったりで安定的な事業運営はまだまだという状況です。

中心的な介護職員の退職があり、社会的な経済の好転状況の中で、安定的な介護職員の確保が非常に困難な状況となっています。また、介護保険法改正によっての介護報酬の削減や選択権の放棄と言われるような問題も生み出しています。このような中で里山を活かした「デイサービス赤目の森」の特性を十分にアピールできる状況ではありませんが、何とか日常業務を無難にこなす事ができているということは、現在勤務している職員のお陰と言ってもいい状況となっています。

高齢者の特質で、転倒による入院・疾病・死亡などで利用数が激減する場合があります、今後も厳しい環境の中で頑張っていかなければならない状況となっています。

今後も、質の高いデイサービスの提供で、確実に利用者は増加するという確信を持ち、職員間の意思統一で今後も取り組んでいかなければならないと考えています

6. 環境関係のネットワークを大切に、情報公開と貴重な情報収集をして会の発展につなげる。

全国でのNPO法人の認証数が3万件以上となる中で、社会の中での市民セクターの役割の定着化は進んでいるということはいえると思います。ただ、この間の様々な経験の中で、地域の団体間での協力協働の力は落ちてきているという事が言えるのではないかと考えています。

それには、一層の力を込めた取り組みをしなければ、再結集の道筋は困難ではないかと思っています。

ただ、第14回全国雑木林会議三重大会での里山関係のネットワークは一層強化されました。地元や三重県単位での協力協働の方向を明確にする事が求められていると思います。

2006年度 本来事業 会計収支決算書

(2006年4月1日から2007年3月31日)

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

科 目	金額(単位 : 円)
I 収入の部	II 支出の部
1 会費収入 289,000	1 本来事業費
2 寄付金収入 1,148,151	① 助成金事業費 4,495,999
3 各種助成金収入 4,456,600	② 企画運営費 640,747
4 トラスト寄付金収入 110,000	③ 里山整備費 318,436
5 実費負担収入 6,000	④ 委託費(介護系) 814,000
6 受託事業収入 100,000	⑤ 介護事業費 16,599,468
7 自主事業収入 269,475	本来事業費計 22,868,650
8 介護事業収入 17,596,533	2 管理費
9 その他収入 532	① 図書印刷費 61,484
	② 諸会費 137,000
	③ 事務消耗費 119,419
	④ 地代 80,000
	⑤ 広告費 188,400
	⑥ 車両関係費 129,886
	⑦ 出張旅費 196,670
	⑧ 通信費 112,680
	⑨ 振り込み料 51,681
	⑩ その他 583,308
	管理費計 1,660,528
当期収入合計 (a) 23,976,291	当期支出合計 (b) 24,529,178

当期支出差額 (a) - (b) -552,887

前期繰越残額 4,449,700 次期繰越収支差額 3,896,813

収入内訳

会費 個人24.9 賛助4.0
寄付金 個人72万 住友海上5万 東海労金 14万
助成金 日本財団30万 国土緑推160万81万40万
国際交流50万 名張市60万12万 その他
受託事業 ジャスコ 子どもエコクラブ
自主事業 理事長講演
介護事業 介護報酬 1600万円
自費負担分 159万円

支出内訳

・ 助成金事業 左記 事業分
・ 企画事業 第14回全国雑木林会議
・ 委託費 シルバー人材
・ 介護事業費 1年分 車両減価償却分21万円含む
・ 図書印刷費 印刷資材など
・ 諸会費 ナショナルトラスト協会など
・ 車両費 里山関係のみの車両費
・ 出張旅費 理事長出張費など
・ 通信費 切手代 郵送費

2006年度 貸借対照表

2007年3月31日現在

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

科 目		金額(単位 : 円)	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金		1,814,831	
内訳 現金		22,512	
郵便貯金		5,400	
郵便振替		11,818	
第三銀行		962,540	
第三銀行		554,487	
第三銀行		7,742	
第三銀行		72,052	
ろうきん東海		178,280	
介護報酬未収金		2,374,866	
介護自費未収金		19,221	
助成金事業未収入金		1,324,800	
仮払金		13,770	
流動資産合計		5,547,488	(a)
2 固定資産			
有形固定資産			
車両運搬具	軽トラック	41,902	
車両運搬具	林内作業車	59,705	
車両運搬具	送迎車両	1,856,904	
什器備品	高速印刷機	43,712	
什器備品	木製案内看板	13,907	
什器備品	デジタルカメラ	13,383	
什器備品	コンピューター	122,002	
什器備品	ペレタイザー	827,739	
	ペレタイザー	826,000	
建物	ミニログハウス	458,432	
第1号トラスト地		1,501,000	
第2号トラスト地		1,000,000	
有形固定資産計		6,764,686	(b)
資産合計		12,312,174	(a)+(b) = (c)
II 負債の部			
1 流動負債			
	借り入れ金	2,697,732	
	未払金	1,125,470	

	社保預り金	157,202	
	市民税預り金	85,896	
	源泉預り金	4,114	
	立替金	3,371,943	
	流動負債計	7,442,357	
	負債合計	7,442,357	(d)
Ⅲ	正味財産の部		
	正味財産合計	4,869,817	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額 (減価償却費計上)	-552.887 (210.000)
当期正味財産減少額	-552.887
前期繰越正味財産額	5.422.704
期末正味財産合計額	4.869.817

3. 借り入れ金の内訳

エコリゾート赤目の森からの立て替え分としては、391052円で

個人からの立て替え分(育てる会役員) 2306680円となっています。

今期のデイサービス赤目の森の介護報酬減の分による資金繰り困難を解消するために立て替えを実施
流動資金の中の未収金が360万あり、収入が増加すれば、返済は十分に可能であると考えています。



手入れしたトムソーヤ広場

デイサービス赤目の森の介護事業 損益計算書 単位円 2006. 04. 01~2007. 03. 31

三重県名張市上三谷 268-1

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

収入			
・ 介護報酬	16,008,293円		
・ 食事自費代等	1,588,240円		
合計	17,596,533円		
支出			
・ 人件費	6,679,294円	(+非営利分240,000円)	
・ 交通費	164,290円		
・ 福利厚生費	784,122円	(+非営利分18,000円)	
・ 家賃等	4,680,000円	(+非営利分120,000円)	
・ 光熱費	983,825円	(+非営利分25000円)	
・ イベント事業費	278,844円		
・ 委託費	814,000円		
・ 食材関係費	673,330円		
・ 車両関係費	1,561,280円		
・ 広告費	120,000円		
・ 通信・図書費	183,399円		
・ 諸会費	20,000円		
・ 研修費	40,000円		
・ 日常消耗品費	179,815円	(+非営利分50,000円)	
・ 備品消耗費	40,000円		
・ 事務消耗品費	119,419円		
・ 出張旅費	65,000円		
・ 減価償却費	210,000円		
・ 雑費	6,850円		
支出合計	17,603,468円		
収支合計	欠損	-6935円	

- ① 金額右のカッコ内の数字は、当会は経費と算入したいが、税務署の指導でデイサービス赤目の森の経費外として除外した金額です。例えば、人件費の全てがデイサービス赤目の森の事業のために供されたかといえば、里山総合講座や他の事業に使ったということもいえるだろうという意味です。
- ② デイサービス赤目の森の収入はおよそ280万円増となりました。過去最高です。
- ③ 減価償却ができるようになりました。少しの欠損金で処理できました。順調に収入が推移すれば、次期は黒字転換になると考えています。
- ④ デイサービス赤目の森の利用者の確保が、経営安定に欠かせない状況となっています。07年度に入り、利用者は減少傾向にあり、06年度の状況を維持できるか予断を許しません。
- ⑤ 人件費をアップして、労働条件を改善したいと思っています。厳しい労働環境の中でヘルパーさんたちは頑張って仕事してくれていると思います。

みどりの基金 会計報告 2007. 3. 31

◆ 協力者数 65名	協力者一覧 (申し込み順 敬称略)		
藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	達 典子(室生)
水谷義明 (吹田)3口	佐々木倭文子1. 2口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民2. 4口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 7口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊2口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子0. 2口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松ズ子10口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子 0. 5口(西宮)	仲田敏 0. 4口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二0. 5口(名張)
村上豊0. 6口(堺)	山岡義典 (狛江)	山上佳代子様 0. 2口(堺)	佐藤範明様0. 2口(大阪)
久保克美様(大阪)			

今年度ご協力をいただいたのは、村上豊様 0. 2口 福森亮二様 2口です。ありがとうございました。

◆ 口数 80. 4口	◆ 基金総額 ￥4. 020. 000-	
◆ 取得不動産	第1号地	第2号地
買取日	97年2月	2000年12月
面積	2934平方メートル	1086平方メートル
住所	三重県名張市上三谷字赤坂	三重県名張市上三谷字赤坂
地目	山林	田
名義	特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会	吉森 加大
取得価格	￥1. 501. 000-	￥1. 000. 000-
手続き費用	￥10. 842-	￥44. 420-
トラスト地看板設置 費用	￥141. 750-	1号地舞台の補修 150. 000円
1号地舞台コンパネなど	￥75. 453-	木道 トレイルの補修 81. 000円
2号地修繕・機械関係	￥110. 000-	
1号地の枯れ松伐採2号地の木道 トレイルの材料など	￥85. 000-	
	2007. 3. 31現在の取得整備費用合計	￥3. 199. 465-
	2007. 3. 31現在のトラスト資金残	￥820. 535-

第1号地現況

- ・ 第14回全国雑木林会議の会場として、床を抜本的に改修 補修
- ・ 座席周辺の草刈 倒木処理 などの実施。

第2号地現況

- ・ 一昨年 地目を田から変更する手続きを行った。完了は1年以上かかる見通しで現在も進行中。隣地の確認
- ・ ハッチョウトンボの生息地が貴重となっている。耕作地をどのように管理していくかを検討する必要がある。木道の老朽化が進み、抜本的な修理保全が必要となってきた。

第2号議案 学生会員の新設 定款変更 (出席の3/4以上の議決事項)

提案内容

定款の変更

定款の第6条を下記のように変更します。以降の関係条項の軽微な変更は省略します。

第6条 この法人の会員は次の3種とし、個人会員と学生会員をもって法上の社員とする。

- 1 個人会員 この法人の目的に賛同して入会した個人
- 2 賛助会員 この法人の目的に賛同し、後援する個人または団体
- 3 学生会員 この法人の目的に賛同して入会した大学もしくは大学院、専門学生などに在学する学生個人

2 学生会員が卒業退学をした場合は、本人の申出がない限り個人会員へ移行する。

学生会員の年会費 1500円とします。

提案理由

国際ワークキャンプ「ナイス」メンバーによる赤目の里山保全のワークキャンプは、1999年夏を第1回として以後毎年2回行われてきました。今年の春で16回を数えています。毎回10名以上の学生を中心に社会人も含めて、2週間赤目の里山保全に十分な活動を提供してくれています。里山保全だけでなく、介護事業や地元の小学校での交流なども行って、信頼協力関係が出来上がっています。

赤目の里山の保全には既に欠かせない存在となり、これからも益々その活躍は期待されているところです。現に、理事会の中にもその中で活躍した現役の学生理事がいて、IT関連の情報発信や助成金事業、キャンプの指導などに十二分な活躍をしてもらっています。

このような中でキャンプが終われば、大学に戻り、卒業して 社会人になるだけの人が多かったのですが、最近では、キャンプを終了した後も、様々な形で赤目の里山を育てる会との関係を持ち、そのままサポーターでいてくれる学生が少なくない状況となりました。

そこで、その人たちを中心に赤目の里山を育てる会の活動にも積極的に参加してもらうことにより、継続的な関係を持ち、学生ならではのアイデアや活動を活かしてもらおうと考え、負担の少ない学生会員という新しい会員を新設したということです。

また、地元にも皇學館大学があり、その学生に対しても、積極的な関わりを持ち、新しいネットワークの構築ができることを願っての学生会員の新設ということがいえます。

提案実施日

この総会での議決を経て、三重県知事に定款変更届けを出して、変更認証がなされたその日から。

ただし、学生会員資格を有する個人会員で、それまでに個人会員として支払った年会費の払い戻しはしない。

また、未払いの年会費がある場合で、学生会員の資格を有するものは、認証後とそれ以前で支払うべき年会費の額を支払うものとする。

以上

次ページの写真の説明

- ① 第14回全国雑木林会議三重大会 in 赤目の森 オープニングコンサート 長弓の会
- ② 第14回全国雑木林会議 プレエクスカーションでの吉田本家の山林
- ③ 新設された石窯
- ④ 石窯に新しく屋根が完成 2007春 ワークキャンプの仲間たち

①



②



③



④

【第3号議案】 2007年度の予算計画案

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会 第10回 総会資料

2007年度 予算計画書 案

07. 4. 1～ 08. 3. 31

収 入		支 出			
1	会費収入	300. 000	1	本来事業費	
2	寄付金収入	1. 000. 000	①	助成金事業費	2. 000. 000
3	各種助成金収入	2. 000. 000	②	企画運営費	200. 000
4	トラスト寄付金収入	200. 000	③	里山整備費	300. 000
5	実費負担収入	10. 000	④	受託事業費	500. 000
6	受託事業収入	400. 000	⑤	介護事業費	15. 000. 000
7	自主事業収入	400. 000		本来事業費計	18. 000. 000
8	介護事業収入	15. 000. 000	2	管理費	
9	その他収入	100. 000	①	図書印刷費	50. 000
			②	諸会費	140. 000
			③	事務消耗費	120. 000
			④	地代	80. 000
			⑤	備品消耗費など	30. 000
			⑥	車両関係費	150. 000
			⑦	出張旅費	200. 000
			⑧	通信費	100. 000
			⑨	その他	100. 000
				管理費合計	970. 000
	当期収入合計	19. 410. 000		支出合計	18. 970. 000

当期繰越差額 440. 000

前期繰越残額 3. 706. 813

次期繰越収支差額 4. 146. 813

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額な金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分からない。これまでの実績で考えている。
- ・ 特にバランスのよい収入構成を目指すために、会員増加を大きな目標としていかなければならない。
- ・ デイサービス事業利用者獲得の大きな課題を全会員のものにすることが重要。

昨年のデイサービス月平均報酬 154万円 一昨年 123万円 今回の予定金額は 125万円

《支出部門》

- ・ デイサービス関連の支出が大幅ダウンしている。車両関係費の減額や諸経費の切り詰めを行う。
- ・ バランスの取れた支出で、大きな欠損を出さないよう取り組む
- ・ デイサービス事業費は、収入と同じだが、減価償却をいれると欠損になる。

【第3号議案】 2007年度の活動方針案

1. 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会の基盤強化に取り組む
第14回全国雑木林会議三重大会での無理やこの10年間に蓄積した組織的疲労状況を明らかにして、これから先の10年に光りを与えるような「さきがけ」としての年にしていく。
 - ・ 組織内の業務を分担化して、無理のないスムーズな活動を行う。
里山整備 広報 会計 イベント 助成金事業
 - ・ 親しみやすいイベントを開催して、里山のファンをたくさん作り出していく。
協働事業やイベントでも、必ず赤目の里山を育てる会紹介 会員募集を訴える。
 - ・ 基礎基盤を確立するための各種文書や資料作りを行う。
会員募集 育てる会のチラシ パンフレット など
 - ・ 学生会員を増やしていく ワークキャンプや地元の大学生などと協力して「まちづくり」を進めていく。
2. (特)赤目の里山を育てる会 会員の皆さんと共に活動を行う。
 - ・ NPO法人は、会の目的を実現するために、会員相互に協力して取り組む事大切。そのために会員のニーズを把握するために、「アンケート」調査を実施する。
 - ・ いつも、基本に立ち戻り、「自然観察会」「旬を味わう会」などの楽しい取り組みを行っていく。
 - ・ 費用の軽減やリアルタイムの情報伝達のためにインターネットのメーリングリストを立ち上げる取り組みをする。
3. 里山保全の担当エリアを確定して、内容を充実させる。
現在のフィールドは、最盛期の時期に獲得したものである。実際に関わる人が減少した中で、現在の広さを維持できるか明確にして、不足するようなら別の手立てを考えていく。
 - ・ 本来 里山保全の中で、将来に残していきたい「景観」づくりが一番楽しい取り組みであることを確認する。
 - ・ 国際ワークキャンプの年間3回以上の実施 週末キャンプの定例化などを検討していく。
 - ・ 器具関係 木道トレールの安全点検は欠かさない。
4. エコリゾート赤目の森を拠点に、新しい里山事業を展望していく
設立から15年を迎えるエコリゾート赤目の森は、赤目の里山保全活動の拠点である。このエコリゾート赤目の森の発展は、同時に事業型里山保全活動を全国に広く示せる「モデル事業」になりえる。そのために、NPOの持っている知識と技術、仲間の支援を結集して、新たな里山事業を構築することを考えていきたい。
例えば
 - ・ 日本ミツバチの飼育講座 ・木質バイオマス講座 ・ 石窯利用講座 などなど
これらの講座をNPOが担当して、エコリゾート赤目の森に宿泊してもらい講座を学ぶというスタイルを検討
 - ・ エコリゾート赤目の森との業務提携を行い、相互に業務としての協力協働関係を明確にしていく。
 - ・ スタッフを早急に確立して、赤目の森らしい事業を展開していく。
5. 介護事業の安定化を図り、更なる発展をめざす
利用者の獲得の困難性 利用者の変動 介護報酬の低劣など、厳しい現実の中で、NPO法人の介護事業所としての役割を明確にしていく事が求められる。
 - ・ 広報活動の定例化 事業所訪問 ケアマネとの情報の共有化 利用者の獲得 拡大
 - ・ ムリ・ムダのない運営を行って働きやすい職場環境を作っていく、職員の定着化を図る。
 - ・ 里山でのデイサービス事業の取り組みを魅力あるものにしていき、「モデル事業」をめざしていく。